

社会や自然に生きる一員としての自己の生き方を考える

「総合的な学習の時間」の進め方 ～新聞を活用して～

指定校 2 年次 長野市立柳町中学校 柿崎孝幸 北田満久 林直樹 渡邊美智子

1 本校の新聞活用(NIE)の現状

今年度、本校は長野県 NIE 研究指定校 2 年目となり、昨年度の研究に引き続き、自己の生き方を考える「総合的な学習の時間」での新聞の活用について研究を進めてきた。

生徒の新聞にかかわる実態としては、家で新聞を購読している割合は高いが、実際に新聞に目を通す生徒はさほど多くはなく、そのほとんどがテレビ欄やスポーツ欄を読む程度である。また、家で新聞を購読しておらず、新聞を読む経験があまりないという生徒もいる。昨年度の研究での課題も受け、今年度は、長期間、複数の新聞に触れる機会を確保することを大切に考え、年間を通じた学習を行ってきた。

2 テーマ設定の理由

本校の全校研究主題の「ひとり立ちしていく生徒」を、学習指導要領の(2)～(4)に示された資質や能力及び態度を育成しつつ、(5)に示された自己の生き方を考えることができることと考えている。また、「友とのかかわりを紡ぐ」とは、「自ら学び、考えたことを友と共有することを通して、自己を振り返り自分の考えや意見を再構築していく」と考えている。

昨年度、3 学年「なりたい自分を探して」の単位では、「自分は将来どんな人間になりたいのか」という課題に、新聞記事から自分が惹かれる行動や考え方を探す。そして、その行動や考え方の何に惹かれるのかを「いいね」と捉え、「いいね」を友と伝え合い共有する。「いいね」の積み重ねから「自分のあこがれ」を蓄積し、「なりたい自分」を決め出していく。という展開で授業を進めた。生徒は、「いいね」を友と伝え合うことで自分の「あこがれ」がはっきりしたり、自分が思いもつかなかった価値観に出会ったりし、今の自分の姿と重ねながら「なりたい自分」を決め出していくことができた。しかし、新聞を継続的に読み始めたのが 2 学期からということもあり、出会った新聞記事が少なかった。そのため、新聞から自分のニーズに合った記事を探し出すためには、さらに長い期間、多くの新聞で行うともっと効果的ではないかという課題が浮き彫りになった。

本年度は、昨年度の研究の成果や課題を踏まえ、スクラップ新聞づくりを自己の生き方を考えるための手立ての 1 つに据え、実践を進めてきた。1 学期から新聞を継続的に読み込み、自分の興味や関心に合わせて記事を探し、蓄積していく。それを切り貼りし、「なぜその記事を選んだのか」、「記事のどんなところに共感したのか」などを考えながらスクラップ新聞を作成することで、自分が大切にしていることや自分の課題を明らかにする。さらに、完成したスクラップ新聞を発表する場面では、見出しの理由となる記事から自分の生活や生き方で大切にしていきたいことを発表し、お互いの発表から大切にしたい生き方について話し合うことで、自己を振り返り、自分の考えや意見をさらに確かなものにしたり再構築したりしていくことができると考え、本テーマを設定した。

3 研究内容

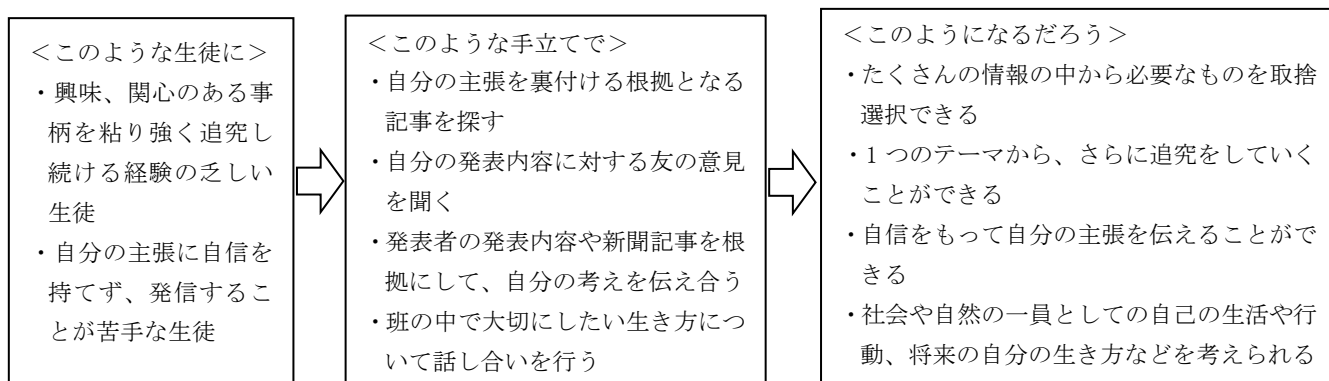
多くの生徒は、ニュース等で報道される事件や問題に興味・関心はあるものの、それ以上深く追究するという経験があまりない。また、自分なりの考えをもっている、客観的な根拠をもっていないために、相手に伝えられない生徒がいる。

3 年 2 組の生徒は、「魅～蒔いた種を“発芽”へ向けて～」(発芽は学級通信のタイトル)という学級目標のもと、最高学年として後輩たちにどのような姿を見(魅)せていくのかを考えながら学校生活を送っている。そのため、学習や諸活動に真面目に取り組むことのできる生徒が多い。しかし、「自分の行動

は周りにどのように見えているのか？」を意識しすぎるあまり、人の目を気にしてしまい、自分の思った行動がとれない姿や、自分の考えに自信がもてず発言に躊躇してしまう姿も見られる。そういった生徒に対して、新聞記事を用いて、興味・関心のある事柄を調べさせていくことで、自分の主張の根拠を明確にしながら、自分の考えをまとめていくことができるようになるのではないかと考える。また、新聞記事を比較し、自分の考えをまとめ、相手に伝えることを通して、自分の中で大切にしたいことを見いだしていくことができるであろう。その「大切にしたいこと」が、その生徒が社会の一員として心がけていきたいことや生活していく上での信念になると考える。その「大切にしたいこと」を明確にしていくために、班の中でのスクラップ新聞の発表と、意見交換の場を設定して学習を進めていく。

本時では、グループ活動を生活班で行うこととしている。その理由は、それぞれの追究しているテーマが別のため、近い意味合いの見出しでのグルーピングが困難なことと、生活班の方が、話し合いをしやすい関係性が築けているためである。

義務教育課程修了後、それぞれの進路へと進んでいく生徒たちには、自己表現をする力が、今まで以上に求められていく。自信をもって自分を表現、主張するためには、明確な根拠が必要であると考え。そこで、自分の主張を裏付ける根拠を探し、それらをもとに自己の主張を行うことで、自己の主張を発信する経験を積み、自己表現の力や自己を主張する力を身につけることができるであろう。また、それぞれの人生で大切にしたい信念を見つけてほしい。そのために、探究的な学習を繰り返し行い、友と意見を交わす活動から、自分の大切にしている事柄が明らかになり、そこから自分の生活や行動、将来の生き方について考えていくことができると考えている。



4 学習指導案

(1) 単元名 自己の生き方を考えよう ～スクラップ新聞を通して～

(2) 単元の目標

興味・関心のある事柄や問題に対し、新聞記事から様々な情報を集め、読み込むことで自分の考えをまとめていく。その考えを、スクラップ新聞にまとめることで、持論への自分自身の理解を深めていく。そして、スクラップ新聞の発表を通して、友とかかわることで、自分の大切にしたい事柄が明確になっていき、社会の一員としての生活や自分の大切にしたい生き方を考えることができる。

(3) 単元の評価規準

①学習方法に関すること	②自分自身に関すること	③他者や社会とのかかわりに関すること
(ア) 自分の興味・関心のあるテーマを新聞記事等から探す。 (イ) 自己の主張を裏付ける根拠を探す。	(ア) 自分が調べたいテーマを言葉にする。 (イ) 自分の考えを文章化する。 (ウ) 発表を通して、将来の生き方を考える。	(ア) 自分の主張を説明したり、友の主張を聞いたりして、新しい考えに出会い、自分なりの考えをもつ。 (イ) 自然や社会の一員として自分の行動や生活などの生き方を考える。

(4) 単元展開

学習活動	学習内容	支援・評価	時
テーマ決定	- 自分の興味・関心のある事柄を新聞記事やインターネットから探す。 - 見つけた事柄に関わって、問題点やさらに追究したいことを考え、それを自分のテーマとする。	- ジャンルを指定せずに興味・関心のある事柄を探すよう促す。 - その事柄からテーマを決めていけるように、その事柄に興味をもった理由や、問題点やさらに調べたいことはないか考えさせる。 ①－(ア)、②－(ア)	3
記事探し	- テーマに関わる記事を探し、読み込んでいく。新聞社は一社に限らず複数の新聞の記事を読み比べる。 - 自分の主張を裏付ける根拠になりそうなものや、反対意見になるものなどに分けていく。	- 自分の主張したいことは何かを常に振り返りながら記事を探すように促す。 - 調べていく過程で自分の考えが変わっていくこともかまわないことを伝えておく。 ①－(イ)	6
新聞づくり	- 実際の新聞や、過去のスクラップ新聞の作品を参考にして、構成を考える。 - 自分の考えやまとめを見出しにして簡潔に表す。	新聞と過去のスクラップ新聞の作品集を教室に用意し、常に見られる状態にしておく。 ②－(イ)、③－(イ)	3
発表会	- 自分のスクラップ新聞の発表を工夫し、内容が相手に伝わりやすいように根拠のはっきりとした発表をこころがける。 - 友の発表を聞き、ワークシートをもとに自分の考えを相手に伝える。	発表会の進め方とルールを確認する。相手の発表内容に対して、反対意見はかまわないが否定することはしないように注意する。 ③－(ア)(イ)、②－(ウ)	3 本時
生き方を考える	発表を終えて、生活していく上で心がけたいことや自分の大切にしたい生き方をより明確にしていく。	全員のスクラップ新聞を教室に掲示し、職員以外の仲間の意見も見聞きすることができるよう環境を整える。 ②－(ウ)、③－(イ)	2

(5) 本時案

①本時の主眼

自分のテーマについて調べ、スクラップ新聞をつくってきた生徒が、スクラップ新聞の見出しの理由となる記事から、自分の生活や生き方で大切にしていきたいことを班の中で発表し、発表内容や新聞記事を根拠に自分の意見を伝え合うことを通して、自分のテーマやこれからの生活で心がけたいこと、大切にしたい生き方に対する考えを深めることができる。

②指導上の留意点

- 発表の班は生活班（6人1班）とする。
- 本時の発表は2～3人とする。前時と本時と次時の合計3時間で全班員の発表を行う。

③本時案

学習活動	生徒の活動、考え	支援・評価	時間
発表会のルールの確認	前回の発表を振り返りながら、発表の手順等を再確認する。	- ワークシートを配布する。 - 発表会の進め方、発表の仕方、発表に対する意見の出し方については事前に指導し、活動がスムーズに行えるようにする。	5分
発表 話し合い	- 自分のスクラップ新聞の発表をしたり、友の発表を聞いたりする。 - 発表を受けて、その人の大切にしている考え方や、記事から考えた自分なりの大切にしたいこと	- 事前の打ち合わせに沿って進むように声をかける。 - 発表や話し合いが苦手な生徒がいる班	35分

	とを班で話し合う。 ア（事前に作成した発表原稿を参考にしながら、発表をする） 私のスクラップ新聞の見出しの理由は〇〇です。これについて調べ始めたきっかけは、～～です。そして、この見出しにしたのは～～だからです。・・・私はこれからの生活で◎◎を大切にしたい、☆☆のような生き方をしたいです。 イ 自分の意見の根拠となる新聞記事が使ってあって説得力があるな。 ウ 自分の意見の根拠となる新聞記事だけではなく、反対意見の記事もあって比較することができるようになっているね。 エ 生きていくうえで大切にしたいことから、高校選択だけではない進路選択の参考にもなりそうだな。 オ ☆☆という生き方は素敵だな。私も大切にしたい。 カ 今後の生活で大切にしたいことの根拠にしている記事から、私は●●も大切だと思うよ。	にできるだけかかわるようにする。 ・質問については、その場で答えられるものについては、その場で答えてもかまわないことを伝える。	
振り返り	キ 私は発表する前まで☆☆を大切にしたいと考えていたけれど、発表の中で班の仲間からの★★という意見を聞いて、それも大切にしたいと思った。 ク 発表者の考えている事は自分の考えている事とは違って面白かった。◎◎という視点で物事を見ていきたいと思った。	・発表が終わった所で振り返りを記入するよう促す。	10分

5 研究の成果と課題

（1）生徒の学びの姿から示唆されたこと

① 班員の意見を聞き、自分の考えをさらに深める姿

発表会を通して、自分の考えと違った見方や考え方がいて、私も考えが変わる部分があった。発表することによって、スクラップ新聞を作った人の伝えたい思いや考えが伝わってきた。それぞれみんな大切にしていきたい生き方や行動があって、そういう意見も大切にしていきたいと思った。
テーマが様々で、大切にしたいことも様々だった。私の発表は自分の健康に関してのことだが、班のみんなは、仲間や困っている人、友達、自然などのことを調べていて、私も周りのことも考えていきたいなと思った。
いろんな問題が話題になっているけど、自分たちは全然知らないし、できることは限られていることが悲しいなと思った。私は難民についてまとめて、支援をしている人の姿から、同じように人を助けたり役に立つことをしたいと思って意見をしたが、自分たちの生活の中で何ができるのかということに対して、具体的な意見が出て、それぞれの生活はつながっているのだなと思った。広い視野で物事を見て、今までの自分が気付かなかったことを気付けるように生活をしていきたいと思う。
（町おこしについてスクラップ新聞を作成した生徒） 減びるところは減びるという、どうもしないという考え方があるんだと思った。しかし、それをどのような場面にでも使うと、どんどんと悪化して行って、取り返しがつかなくなると思った。危機に陥った時に、相手を思いやる気持ちが生まれると思った。そして、言動に責任をとらないと周りに迷惑をかけてしまうことが分かった。

あくまでも一例ではあるが、上記の4名の生徒のように、自分の発表に対する友の意見や、友の発表から新たな見方や考え方に会い、自分の考えを深める姿が見られた。これは班の中でそれぞれのスクラップ新聞を発表し、意見交換をしたことによるものと考えられる。

② 興味・関心のなかった事柄について自分の考えをもつ姿

今まで、あまり興味がなく他人事になっていたものがみんなの発表から関係のあるものや意味のあるものに変わっていき、ホラーに対しての新たなイメージや戦争、安保法案に対する自分の考えをもつことができた。

新聞やニュースの報道などから、様々な社会的事象を目にしたり、耳にしたりするものの、どこかで他人事だと思っていた生徒が、学級の仲間の調べたことがらや発表を聞いて、それらの社会的事象に興味をもつ姿が見られた。保護者や教師から「〇〇について考えなさい」と言われるよりも、社会的事象に興味をもつうえで、はるかに効果的であったと考えられる。大人ではなく、自分の隣に座るクラスの仲間からの意見が、生徒たちにとってどれほど届きやすいのかを再確認することができた。

③ 発表の中で友と共通している点を明らかにし、そこから大切にしたい生き方を見いだしていく姿

発表者によって、発表するテーマが様々で、いろいろな方向から自分の生活を見直すことができた。また、みんなの考えが、まとめると全然違うテーマに対しての考えなのに、共通していることがあった。それは、当たり前のことをしっかりとやるということです。そこから私は、まず基本的なことを人間として大切にしていきたいと思いました。

それぞれの発表の中で、共通していることに気づき、それが自分にとって大切にしたいことの根底にあることだと気付いた生徒もいた。これは、それぞれ異なったテーマでスクラップ新聞を作成し、テーマが異なる班員同士で発表をしていったことによって得られたことであると考えられる。

(2) 今年度の成果と課題及び来年度の方角

「自己の生き方を考える」ための学習として、スクラップ新聞づくりとその発表及び意見交換を行った。興味・関心のある事柄や問題に対し、新聞記事から様々な情報を集め、スクラップ新聞にまとめることで、自分の考えを明確にもつことができた。発表及び意見交換の場では、次のような姿が見られた。①自分の発表に対する友の意見や、友の発表から新たな見方や考え方に会い、自分の考えを深める姿。②学級の仲間の調べた事柄や発表を聞いて、それらの社会的事象に興味をもつ姿。③それぞれの発表の中で、共通していることに気づき、それが自分にとって大切にしたいことの根底にあることだと気付いた姿、である。

一方で、今回の研究ではそれぞれの興味・関心のあるテーマについて調べ、発表しているので、話し合いがなかなか深まらないという課題が明らかとなった。これは、班員がそれぞれのテーマにそって調べ、テーマの異なる班員同士で発表したためである。話し合いをより深めていくためには、同じテーマあるいは似ているテーマでグループを作成し、発表することが考えられる。

今回は、学習を進める中で、自分の意見を深めることよりも、広げることに重点をおいたため、このような形式で授業を行った。しかし、意見を深めることに重点をおく場合は、同じか似ているテーマについて調べている人でグループを作成し、発表を進めるのが有効であろう。

いずれにせよ、本時のねらいを明確にして、そこに到達するためにより有効な方法を考え、実践していくことが大切であることを再認識することができた。

来年度は、さらに研究を重ね、新聞を活用した「自己の生き方を考える」ための学習として有効な学習の展開や手立てを考えていきたい。